



ひとははつくり

(題字: 齋藤心)



(ホムパ - シアト リ) http://hitoha-fukushi.com (メルアド リ) honbu@hitoha-fukushi.com

社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

あたらしく入ったひとはの仲間たち

なまえ 山野 智寛
 所属 就労センターあぷ(アグリサポート)
 好きな食べ物 肉
 苦手な食べ物 前は野菜が嫌いだった
 が、さき亭を利用している内に食べられるようになった。
 好きなこと になること。
 テレビをみること、ゲームをすること、人と話すこと
 一般企業に、およそ18年
 専らめていました。

なまえ 中山 健司
 所属 就労センターあぷ(あぷ)
 好きな食べ物 妻の手料理全て
 苦手な食べ物 ありません
 好きなこと
 剣道で汗をかくこと。
 現在六段です。
 性格は温厚です。

なまえ 胤森 信吾
 所属 共同ホームひとは
 ひとは作業所
 最近、笑った話
 プールの更衣室で、1人の時に
 歌っていたら、他の人が入って
 きて、耳がすかした...

なまえ 小川 優子
 所属 食事部
 最近、笑った話
 朝ドラの「エール」にはまっている18歳の
 長男は、毎日声高にナツメロを歌っています。
 楽しそうに「丘を〜こえ〜て〜行くよ♪」と
 歌っている姿を見ると、思わずにっこり
 笑ってしまう私です。

温暖化現象と共に、「私たちが経験したことのない天候」という言葉が
 珍しくないほど使われるようになってきました。皆さんの地域では災害に
 遭っていないでしょうか。温暖化現象は自然災害というよりも、人間の
 傲慢さが生み出した人災というべきものかもしれません。

それはさておき、ひとはは皆さんのおかげで35周年を迎えることができます。
 現在、ひとはつうしんの編集委員が記念号を鋭意作成中です。編集委員が
 1号から現在までのつうしんを振り返りながら、その時その時の思い出を思い出して
 いますが、私もいくらかをその輪に加わりました。その中にギョッとした一文に出会
 いました。ひとはを見学に来たある施設の家族の方が「私は施設の必要性は
 認めるのですが、現在の施設長や職員を総とっかえしてほしいです」と発言して
 いるのを受けて、ひとははどうかと自問しているのです。

今では、障害のある人たちの権利条約をはじめ、虐待防止法や差別解消
 法などの制度は整えられてきました。それでもなお、津久井やまゆり園事件
 をはじめ、障害のある人たちに対する虐待や差別偏見はなくなりません。

ひとはは、ひとはに関する全ての人たちが自分らしく生きるために、何か
 できるかを常に問いかけたいと思います。そのためにも、皆さんからのご助言
 ご意見をお願いします。

(理事長 寺尾 文尚)

35周年記念号に重慶さんの言葉を載せたいと依頼したのは、7月号が出る直前
 のこと。数日後に出会って「読んだけど載ってないじゃん」とお叱りを受けた
 記念号は11月に出版すると話すと、「早く言いなさいよ」とまたお叱り。
 「そういうことは直前でいいの」とのことであった。(竹内 宏美)



「今日も一緒にがんばろうね!!」

植田さんとは一緒にホームメンテの仕事をしており、仕事ぶりはとても真面目で、やる事は丁寧で紳士的な方だと私は感じています。朝一番に「今日も一緒にがんばろうね!!」と言われると、一緒に仕事をする仲間として入れてもらった様な気分になり、嬉しい気持ちになります。ひとはにいと、そういった心遣い出来事にたくさん出逢うことがあります。今日も一緒にがんばりましょうね!!
(ひとは作業所 丸井美智子)

「まさかの」

ある日の午後のこと、「道の駅へ納品に行きます。」と出かけられた城崎さん。しばらくすると戻ってこられる。ちょっと沈んだ様子に「どうがされたんですか?」と聞くと、そと下の方から出された右手にはなんと! 電話の子機が!! 「え〜」と思わず吹き出しそうになるが、本人はいたって真面目。マスクの中の顔は笑っているのかいけふのか分からず、とりあえず笑いをこらえて「大丈夫ですか?」と聞く。よほどお疲れだったのか、鞆問を抱えておられたのか、それにしても、早く気付かれて良かった。出先で電話しようとしてポケットから子機が出てきたらどんなことになっていたか、お笑いのネタではみたことがあるけど生で見られるとは...。暗いニュースが続く中、ほんと癒された出来事でした。
(就業センターあぶら 兼近 洋子)

「服部さんに叱られる」

ひとは館で働くようになり、少し経った頃、不意に「開けたら開ければなし、戸相を開けたら閉める! 原田さん家でもそうなん?」と注意されまける。この歳になり、あたりまえのことを注意してもらえたことが、すごく新鮮でした。そういえば、家でも開けたら閉めなしかが夕いなと反省。製造の先輩服部さん、これからもよろしくお願ひします。
(ひとは館 原田 ちえみ)

「最高の笑顔でありがとう」

園部真由美さんはショートステイ利用をされている。理由は色々あるけれど... 一番は健康の為。驚くような数値を提示され、正直戸惑った。同時にショート利用したのに成果が出なかった場合はどうしよう...とフレッシュもあった。それから手探りで食事制限が始まった。白ご飯を毎食70gに計量、付け合わせの野菜もタメにしておかずはノンオイル、など。そして、2ヶ月経った通院時、数値が落ち着き体重も減っていたので病院の先生も驚かれた! と報告を受けた。飛び上がるほど嬉しかった。園部さんも「食堂さんのおかげで数値が平常になった! ありがとう」と笑顔。一番頑張ったのは園部さんご自身。よかった。目標値はもう少し先!
(食事部 上田 真実)

「将棋を通して学ぶ」

臨時休校期間中、屋外での遊びを制限される中で、夕方になると「将棋をしよう!」と誘ってくるS君。長期休暇を主に利用するS君は、去年の夏休みにルールを覚え、対戦相手の私から強い普通、弱いレベルを選び、時には勝ち、時には負け、時にはアドバイスを受けた。そして、休校期間も終盤に差し掛かった頃、私と本気で勝負をすると、S君の勝利! その時には、他の人に自慢するほどの喜びようでした。S君の賢さを感じられたことともに、次の夏休みにはどんな戦い方をしようか、頭を悩ませています。
(くらまぼん 山崎 真志郎)



編

集

後

記

夏になると、アパートの大家さんから「縄文あいす」を頼まれる。以前に一度、夏のあいすに持って行ったときにす、カリ気に入られたようで、「お金を払うから、来月も持ってきて!」と言われた。それ以来、夏の時期には家賃とともにあいすを持参するのが恒例になっている。畑仕事の後のあいすは絶品なのでそう。今月も持って行き「ありがとう、ありがとう」と言葉をかけてくれた。(白井 くみこ)

